

信毎俳壇
神野 紗希 選

年神の許し賜ひし巨樹の夢 (長野市) 武田 芳子
春寒や古代海月に細き骨 (小諸市) 加藤 陽介
地吹雪の止みし未明や産まれけり (大田市) 原田 勝
母見えて悴みし子の泣きたしぬ (箕輪町) 向山 政俊
履き馴れぬブーツの硬さ寒椿 (長野市) 田中 重実
氷柱解け木琴の音眩しかり (飯田市) 吉沢 奨
小首傾げ雪野にくらむ鴉かな (佐久市) 佐藤 勝子
臨月の娘に持たす寒卵 (長野市) 松本 宏実
シヨベルカ―深雪に眠る竜の骨 (須坂市) 富田 孝弘
失明の師や日射探りて春を待つ (松本市) 小林 幸平
佳作
日脚伸ぶ土鈴の一つ振ってみる (上田市) 香枝 流
亡き祖母の手書き家系図あたかし (長野市) 宮島佐代子

一句目、年神に許されて会う巨樹ならば、霊力もあふれる。年初を堂々としてほぐやかな初夢。二句目、古代の海月には骨があったとか。進化の過程で失われたかすかな確かさを思うとき、春寒の心細さがふと輪郭を持つ。三句目、地吹雪のやんだ静寂に産声が響く。「や」「けり」と強い切れを重ね、出産という一大事をずしりと受け止めた。四句目、堪えていた緊張が解けた安堵。悴む手を包んでやりたい。

選評

坊城 俊樹 選

桜島大根詰めしランドセル (小諸市) 加藤 陽介
冬銀河嶺の口より吐き出され (千曲市) 中村 美樹
わが妻は仮の姿や雪女 (長野市) 原田 浩生
初場所や勝たねばならぬ父系持ち (伊那市) 中村 茂子
毛布から顔だけ出して外の犬 (佐久市) 水間喜美子
板チョコの銀紙フシャと寒に入る (長野市) 小池 秀雄
アルプスの凍みも潰けこむ大根かな (千曲市) 滝沢 武子
満天の星を掃き寄す枯けやき (中野市) 中野可菜乃
頬被ふつうに生きる爺と婆 (佐久市) 竹内 勝代
来し方の足跡のこと新雪へ (安曇野市) 小坂るり子
佳作
幼子は右ころが好き日脚伸ぶ (長野市) 坂口 智弘
旅人に席譲らるる初電車 (長野市) 宮沢 朝子

一句目、きっと小学校低学年の男の子なのだろう。あの大きな大根をランドセルに押し込んでいる。その光景だけでも笑みがこぼれる。今日はお鍋の日か。二句目、嶺とは夢を食べるとかいわれる。銀河という巨大な物でも食べてしまうのかも。それこそ夢のような俳句。三句目、これはまた恐ろしい。妻は実は雪女の化身であったという。その美しさもまた恐ろしいではないか。

選評

今井 聖 選

合宿の朝餉山なす寒卵 (箕輪町) 向山 政俊
長生きの家系嫌はる木瓜の花 (伊那市) 中村 茂子
寒晴や女ばかりの同級生 (富士見町) 鬼束 淳子
ビートルズ聞きてはかどるおせちかな (伊那市) 伊藤 弘三
若き日に住みたる町の雁木かな (飯綱町) 坂井 寿男
静謐の極まって行く寒夜かな (上田市) 松沢 昭一
灰皿のおやじの指紋春を待つ (坂城町) 宮下 和夫
不都合な真実を吐くおでん酒 (佐久市) 西田 和彦
立春の朝日に雀の影も伸び (長野市) 小白向栄子
夜明け前除雪車わが家揺り過ぐ (長野市) 田中 重実
佳作
卒業写真大地に確と直立す (飯綱町) 小林 紀子
大寒の産湯父母伯父の顔 (松本市) 伊藤 和夫

一句目、高校、大学の部活動の合宿か。部員の朝餉に卵が山と積まれている。青春のエネルギーを感じる。二句目、嫁に出す側は娘が婚家の義母とうまくいくように願うあまりの本音と言えるかもしれ

選評

ない。三句目、女子校の同級生はみんな女子。当たり前だが共学校出には新鮮な感じがある。四句目、ビートルズを聴きながらおせち料理を作る。青春の象徴がいつしか家庭の慣習に根づいている。